

平成21年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1 日 時 平成21年10月30日（金）午後1時30分～

2 場 所 考古博物館 研修センター

3 出席者（敬称略）

（委員） 大隅清陽、椎名慎太郎、齊藤洋子、篠原誠、田代孝、谷口一夫、
三井久美子、宮崎秀子、持田利雄、湯川邦夫 10名

（事務局） 武井館長、渡辺次長、保坂学芸課長、学芸課員3名、総務課員1名
（教育委員会）学術文化財課員2名

4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 会長あいさつ
- (3) 議事
- (4) その他
- (5) 閉会

5 会議に付した事案の件名

- (1) 平成21年度考古博物館経過事業について
- (2) 平成21年度考古博物館予定事業について
- (3) 平成22年度第28回特別展について
- (4) その他

6 議事の概要

（委員）

考古博物館開館当時の感激、ありがたみが薄れてきている。『歴史が目の前に生きている』という感覚を県民の日常に定着させたい。甲府中心街の人達が参加できるイベントも必要。時間帯も夜6時30分に始めれば勤め人が参加できる。

（事務局）

7月に甲府市中心街にある桜座で、縄文をテーマにした公演等に協力した。縄文や考古学に興味を持つきっかけや、考古博物館への来館につながることを期待している。

（委員）

縄文時代の遺物など素晴らしいものはたくさんあるが、発信方法が課題である。山梨県は文化遺産の価値を高めるようがんばる必要がある。

(委員)

ホームページで、今回の特別展情報を見たが、文字情報が多い。見た人が興味を示すように画像等を活用したほうがよい。また、古いデータが目立つと、内容を更新していないと勘違いしてしまうので工夫したほうがよい。

考古博物館も含めて県のホームページには、アンケート機能があるが、回答欄に改善の必要がある。具体的な意見を反映できるようにすべき。

(委員)

子供達、小中学生に考古を伝えて欲しい。宣伝して欲しい。学校関係者には、校長先生達だけではなく、現場の先生達にも宣伝することが必用。

11月20日の県民の日にはイベントを実施するか？

(事務局)

今回の県民の日には、古代衣装の試着イベントを計画している。

(委員)

イベント、広報活動を甲府の中心で実施して欲しい。考古博物館は、縄文をテーマにして活動するのがよいと思う。県民に認知してもらいたい。

また、甲府城柳沢吉里入城300年展を企画したらどうか。

(委員) 甲府駅北口再開発で、山梨大学や放送大学との連携を検討したらどうか？

(委員) 平成25年国民文化祭との連携も検討したらどうか？

(委員) 甲府駅北口に県内博物館のアンテナショップ的な場が欲しい。

(委員)

考古博物館の存在をアピールすることが大事。アクセスは重要。バス路線を何とかできないだろうか。ここの素晴らしい景色と遺跡を楽しむイベントを企画して欲しい。

(事務局)

定期バス路線に関しては、考古博物館だけではなく地域住民も含めた多くの関係者の協力がなければ現状を変えていくことはできない。

(委員)

学校では、インフルエンザ対策として生徒を休ませ自宅待機させている。考古博物館の入館者数にも影響がでるだろう。

バスについては、定期路線だけではなくある時期だけの路線を検討したり、広報宣伝につ

いては、従来の方法・場所だけではなく例えば市町村図書館等での宣伝を検討するなど発想の転換が必用。

(委員)

講演会、セミナー、各種教室に40～50人位集めている。このような実績に対して敬意を表す。なかには、参加人数が少なかった催しもあるようだが、公民会等で宣伝してもよいと思う。

(事務局)

少ない人数のものは、ガラス玉や青銅鏡作りなど、マンツーマンでの指導が必要なもので、1日に数人しか対応できない。特別展では小中高校や図書館などの社会教育施設にポスター・チラシを配布したが、公民会等へも配布できるよう配慮したい。

(委員)

考古博物館は、子どもから大人までの幅広い層に向けて事業を実施している。特に子ども達に興味を持たせることは大事。学校が館を見学をする時、屋外の古墳見学をするのはどの程度の割合か？また館内のミュージアムショップで売れている物はどのような物か？

(事務局)

学校見学では、9割程度が古墳見学を希望している。ミュージアムショップでは、200円程度の品物で、「まめはにわ」などが売れている。

考古博物館全体の入館状況は、平成15年度に2万人に落ち込んだが、昨年度は2万9千人まで回復した。講座・セミナー等参加者を加えると6万2千人となる。

委員から要望のあった、甲府駅北口に県内博物館のプレゼンテーション場所を設置する等については教育委員会にお伝えして参ります。